

家族制農業の存在構造——現代の危機を考える

磯辺 俊彦

I 家族制農業解体の危機

- 1 東京一極集中段階の意味：国民経済の分断
- 2 農業の工業化路線：「公正なき効率」路線：東西農業の挫折
資本の自由↓農業への株式会社制の導入↓
- 3 土地投機・農業破壊の自由
- 4 先進国では異常な日本の食糧自給率の低落：「市民社会」としての政治的独立の欠落・農工格差構造・貿易自由原則（強者の論理）の帰結

II 危機分析の古典的基準（資本制蓄積の歴史的意義）

〔第一局面〕「資本の文明化作用」 生産力の技術的基礎は革命的、それが労働者の機能や労働過程の社会的結合を変革する↓中心部（宗主国）から周辺部（植民地）への商品経済の拡大と価値収奪……
〔経済成長の積極面〕

〔第二局面〕「資本の自己破壊作用」 利潤追求の無制限性↓資本制生産の立脚点の自己破壊「資本が生産できない」「土地と人」の破壊、さらに「社会的道徳律」「家族」の破壊↓労働力の分断・

固定・破壊↓その現代的表現としての地球環境問題・公害問題・資源問題・人口問題・土地問題……「経済成長の消極面」

資源浪費によるコストダウンの矛盾（私的費用削減のための社会的費用の累積）

飽食と飢餓の衝突（南北問題）、過剰と過剰の衝突（先進国間問題）
経済的豊かさとの間の豊かさの矛盾（フローの論理とストックの論理の衝突）

〔第三局面〕「人間の再構成の論理」 この第一、第二の局面の矛盾を止揚・変革する主体の形成。労働力の社会化↓労働力の自立・
結果……「人間陶冶の積極面」

資本制生産は自然過程の必然性をもって、それ自身の否定を生み出す。そこに、如何なる貧困・抑圧・隷属・頹廢・搾取によっても変えることのできない、人間の本性、人間の自然がある（マルクスの基本的樂觀主義・人間主義）。

〔「資本論」第一巻、機械と大工業、資本制蓄積の歴史的傾向〕

Ⅲ 土地所有「利用」の重層構造仮説――

「歴史と風土とのかわり」をめぐって

- 1 川口諦・石黒重明「『鹿兒島農業の諸問題』農業総合研究所、一九六六」↓沖繩「参考文献4」↓桑原武夫「『解題』中里介山『大菩薩峠』時代小説文庫第二巻、一九八一」からの論点提起

- 2 上部構造としての「自治村落」の二重の意義：強制・抑圧と自

立・生きがい

土地所有の二重規定……

（資本↓土地所有↓賃労働）の論理「解体論規定」

（賃労働↓土地所有↓資本）の論理「再構成論的規定」

- 3 所有の本源的性格（「集団性」↓「個別性」）↑「私性」↓「むらびいえ」私的・個人的所有↓私的所有↓個人的所有（「新しい市民社会」の支え）

土地所有による労働の規定……一子相続・直系家族制……世代継承（本土水田農業の上部構造）

↔

労働による土地所有の規定……均分相続・夫婦家族制……一代限り（沖繩畑作農業の基底構造）

Ⅳ 現代資本主義構造の変貌

- 1 フォード主義的蓄積体制の成長メカニズム

（戦後の高度経済成長期）

効率と公正の併進、そこでの「労働過程」と「生活過程」の密接な対応構造「M・アグリエッタ『資本主義のレギュレーション理論――政治経済学の革新』若森他訳、大村書店、一九八九」
特殊な日本フォードイズムの特徴（長期構造不況期）

- 2 「公正なき効率」のトヨタイズム
 - (1) 高い生産性上昇率
 - (2) 低いインデックス「物価スライド」賃金
 - (3) 大きな賃金格差
 - (4) 福祉国家の貧困

「山田銳夫『レギュレーション・アプローチ』藤原書店、一九九二」

3 「社会に埋め込まれた経済」(ポランニイ、ギアツ)から「経済に埋め込まれた社会」(バックス・エコノミカ)(イリイチ)へ

V 新しい農法変革Ⅱ市民運動の原理(価値)を求めて

——世帯から個人へ

1 集団的土地利用秩序の形成：日本的な水田型のLISAへの途(集約か疎放か)

2 「市民の農民化」と「農民の市民化」のギャップ：家族原理の推転過程(土地のために人間があるのではない。人間のために土地があるという思想)

3 共産主義と個人主義の統合の課題：チャヤノフ(「農民的社会主義」ユートピア：権力からの自由・分権の論理・商品世界への一元化ではなく諸文化の共存の論理)、アンドレ・ジイド、三木 清：真の「民主主義」とは何か。「貧しさからの解放」とは何だったのか。

4 「民衆理性」と「新しい市民社会」の「内生的」主体形成(上からの「公共の福祉」に対抗する「地域エゴイズム」↓自然との共生・増進)Ⅱ「新しい公共性」(栗原彬「(民衆理性)の存在証明」テツオ・ナジタ他編『戦後日本の精神史』岩波書店、一九八八)

「参考文献」

1 磯辺俊彦『日本農業の土地問題——土地経済学の構成』東大出版会(一九八五)。

2 「家族制農業の分析課題」『土地制度史学』一一九号(一九八八)。

3 「チャヤノフ理論と日本における小農経済研究の軌跡」『農業経済研究』六一卷三号(一九九〇)。

4 同 「基本法農政の農法論的基礎——正常な市場メカニズムの前提条件」『基本法農政下の農業・農政と今後の課題——中間報告』農政調査委員会(一九八七)。